

令和4年4月定例記者会見要旨

開催日時 令和4年4月25日(月)午前10時30分 302会議室

(市長)

新年度を迎え、記者クラブの皆さんも交代がありました。市役所関係も学校関係も新しいメンバーを迎え、また、入学式等も行われてフレッシュな気持ちでスタートを切ったところです。

最初は、新型コロナウイルス感染拡大防止についての諏訪市長メッセージです。新型コロナウイルス感染症は、感染警戒レベル5のまま高止まりが続いています。また、4月20日には医療警報が発出され、確保病床使用率が25%を超えてきた状況です。感染力の強いオミクロン株B.A.2系統への置き換わり、また、新規の陽性者数が過去に経験のない高い水準であることを受け、ゴールデンウィークを控え、また、諏訪地域においては御柱祭里曳きが人力で行われることが決定している状況などから、改めて感染対策していただくよう市長メッセージを発出することにしました。主なポイントは、6項目あります。高齢者や基礎疾患をお持ちの方など重症化リスクが高い方や子どもを守る。医療体制を堅持すること。そして、感染急拡大に歯止めをかけて社会経済活動を維持し両立すること。これが新たな考え方になります。無症状感染者や重症化せず治癒される方々もかなりいらっしゃる中で、自粛だけでは精神的なストレスが持ちこたえられないというような声も聞こえてきます。感染対策をしっかり行った上で、工夫しながら社会活動を行う、できるだけ実行していくという考え方です。そのために、市民の皆様をお願いしたいことが、次の3つです。一つ目は、国が提供しているワクチン検査パッケージ等の無料検査の活用。二つ目は、家庭内感染の防止対策の実施。引き続き家庭内感染が多く見受けられます。先週、市内の感染者の約4割が家庭内感染という数字が出ておりました。家庭内で注意していただきたい8つのポイントを改めて認識をしていただき、家庭内感染の防止対策をお願いします。三つ目は、接種可能な方は、早期に積極的なワクチン接種の検討をお願いしたいということ。この3点となります。感染者、濃厚接触者、家族は、7日間の待機が要請されます。ワクチン検査パッケージは、待機期間を終えて社会へ出て行くというタイミングで不安がある場合、医療機関での検査が無償で受けられるものです。市内では4月20日現在、24の診療所でこのサービスが受けられます。家庭内感染対策のため、諏訪市では「あんしん療養キット」をお届けしており、その中にもこの情報を入れてあります。待機期間の途中は無償で受けられるサービスはありません。自主的な検査は、薬局等で簡易検査キット等が販売されていますが、社会復帰するタイミングで無償のこの検査を受けていただくことをお願いしています。皆さんご承知のとおり、基本的には自分が感染しない、また、感染させない。そして、家庭内においても、共用部分の洗浄、リネン関係の洗濯、鼻をかんだティッシュはすぐビニール袋に入れて密閉をするなど、基本的なことをお願いします。感染者が多くなり、保健所では濃厚接触者への対応が難しい状況があり、県では、感染が確認された事業所宛てに依頼を発出しました。事業所で感染者が確認された場合に、その周辺の濃厚接触者を確認するためのチェックリストを利用して対応をお願いするということです。本日は、連休を前にして、人の移動が必然的に多くなる時期に、これ以上感染を広げないよう前もって市民の皆様にご協力をお願いするものであります。先に開催されました教育委員会の委員の皆さんからは、学校現場、子どもたち、PTAの皆さんから学校でできるだけ活動ができるよう要望が出されているという報告がありました。感染の拡大に歯止めをかけながら、社会経済活動を維持し、両立していくというこの考え方で、コロナに対応しつつ社会活動が進むよう、格段のご理解ご協力をお願いします。

(5月の日程説明等)

- 第99回上水道記念式・御水神御柱祭
5月21日(土) 午前9時15分 茶臼山配水池
- 諏訪市水防訓練
5月22日(日) 午前8時00分 諏訪湖イベントひろば
- 第53回高島城祭
5月22日(日) 午前9時00分 高島公園
- 霧ヶ峰開山祭
5月27日(金) 午前9時30分 強清水(予定)
- 教育委員会関係5月行事予定

(総務部長)

クールビズについてお話しします。以前は、環境省で推奨期間を定めていましたが、昨年度から環境省では推奨期間を定めないこととなりました。地域の実情等を鑑みながら決めることとなり、本市では5月1日から当面9月30日を目途にクールビズを実施する予定です。庁内等に掲示をします。

記者との質疑応答

○御柱祭における新型コロナウイルス感染症対策について

(記者) 御柱祭の里曳きは人力で行われることになった。一つの柱を数百人単位で引くことになる。実行委員会でも対策はされるだろうが、3密状態でクラスター発生の心配もあると思うが、里曳きについてはどのようなお考えか。

(市長) 御柱祭は、氏子が行う神事と実行委員会が行う祭事があります。お宮が主催の式年造営御柱大祭で宝殿の建て替えなどを行う神事と御柱を曳いてきて社の四隅に建てる氏子が中心となる祭事です。行政としては、街を挙げての大きな祭なので、交通の安全、ごみ、トイレなどの環境関係、観光の振興支援等に取り組むこととなります。私自身は、市長として奉賛会長等の立場がありその役割で参加します。この度、実行委員会の決定により御柱祭を人力でやることになりました。この決定は尊重させていただきます。しかしながら、感染拡大防止には格段の理解と協力をお願いしたい立場です。実行委員会が行動基準等を示しており、密にならないよう配慮をしながら実施することとなります。人力で行うことに決まりましたが、かつてのように200万人も集まってくるような想定はできません。観光客の皆さんを積極的に呼び寄る状況にはなっていないので、規制線の中は、氏子の関係者が中心になると承知しています。また、人力で行うことが決定された側面には、6年に1回、足かけ7年に1回のお祭りであって、5～6トンの大きな柱を動かすための綱打ち、てこ、柱の進行、引き綱、追っかけ綱等様々なものを伝承しなければ、祭そのものの存続に影響するおそれがあるといったこともあり、総代会で決定されたことを尊重したいと思っています。こうした伝統文化、そして、地域のコミュニティを作るという意味で祭は大変重要だと捉えています。人々が一緒に取り組み何度か顔を合わせるうちに仲間意識ができ、それは祭の時だけでなくその後のコミュニティの中で人の絆ができていくという、祭の存在意義というのも大切に思っていますので、成功裏のうちにできるように祈っております。奉賛会長として、いろんな立場において、そのように皆様に挨拶をさせていただいています。

(記者) 氏子の皆さんは健康チェックをされて感染対策に気を付けていらっしゃると思う

が、山出しでそうであったように、里曳きでも沿道には観光客や地元の方が大勢いらっしやると思う。その感染対策についての考えは。

(市長) 規制線の外とはいえ、観覧するということは自然に起こることです。観覧者の皆さんには、県が発出している警戒レベルに合わせた対応が求められます。感染レベル5という現状であり、医療警報も出ていますので感染に対して十分に配慮していただくよう呼びかけますが、規制線の外は社会全般と同じ対応なので、今日発出したことについてご協力、ご理解をお願いすることになります。

(記者) 一般社会と同じ感染対策であって、観覧者に特別注意を呼びかけることは想定されていないか。

(市長) 主催者の皆さんと協力連携をしながら、相談したいと思います。

○「あんしん療養キット」について

(記者) 「あんしん療養キット」の利用状況は。

(市長) 先週末までに12件の利用がありました。家族全員が感染された場合には、配布の対象にならないため、要望に応えられなかった事案があるという報告も受けています。

○燃やすごみ有料化について

(記者) 家庭系ごみの燃やすごみ有料化から1年経ち、前年比で15%余りの減で一定の成果があったと思うが、現状についての受け止めと有料化の成果、課題、新しい取り組みなどがあればお聞きしたい。

(市長) 15.6%に対する評価は、それぞれにあると思います。諏訪市は、長年有料化せずに減量に取り組んできました。その方法は、例えば草類などを燃やすごみから分け、堆肥化するための別回収を行う、生ごみに対してコンポストの購入補助をするなどの取り組みです。その上での有料化なので、15.6%という低めの数字になったと推測しています。この分析については改めて担当課が調査・研究したいと思います。いずれにしても、ゼロカーボンシティ宣言を行い、持続可能なSDGsへの取り組みを全庁挙げてやろうという方向でスタートを切っているので、ごみも資源化できるものは資源化を、というようにさらに取り組みを進めていきたいと思っています。

(記者) 今年度のごみ関連での具体的な取り組み、新たな取り組みはあるか。

(市長) 本庁舎の電力をすべて再生可能エネルギーに転換してスタートしています。ごみの分別収集は、さらに進めていきます。継続するものはいくつかあります。例えば、高齢の方がごみステーションまでごみを持って行かれない場合のごみ出し支援サービスがあります。ごみステーションのごみがネットからはみ出してカラスがつつく状況があり、観光地ということもあって区でスチール製の開閉式のごみステーションに改修する場合、補助金メニューを設けています。

(副市長) コロナによって家庭での生活様態が変わったこともあり、ここ1~2年のごみの量だけを捉えることは少し考え方が違うという思いがあります。ごみ減量は、以前から取り組んでいるひとつの成果が現状の数字として出ております。そんな背景があり家庭ごみについて思ったよりも成果が出ていないという一面はあると思います。その分、ホテルや飲食店等事業系のごみは、お客様が少なかったことで大きく減っています。

(記者) 今後の数値目標はあるか。

(市長) 後ほど、担当課から示します。ゼロカーボンへの取り組みについては、3月26日

にゼロカーボンシティ宣言を行った際、市内133事業所・団体に賛同していただきました。環境への取り組みで表彰を受けた諏訪中学校の代表の2人の子どもたちにも一緒に参加していただきました。長野県も知事は環境に対して先導的な立場を取っています。企業については、20世紀から水の環境やフロン等において、世界的に先進的な取り組みをしているセイコーエプソン株式会社にその代表として立ち会っていただき、地域全体で取り組むというメッセージを発出しています。新しい技術開発、あるいは温泉の熱など再生可能エネルギーへの取り組みも推進したいと思っています。環境政策については、環境課を取材していただくようお願いします。

○御柱祭における新型コロナウイルス感染症対策について（追加）

（記者）里曳きを人力で行うことによってクラスター発生の懸念があるが、市に対して市民から心配の声などは寄せられているか。

（副市長）市民の方から諏訪市に対してはありません。市長が申したとおり、その判断をするべきところが判断をされていますので、行政とすればその決定を尊重したいと思います。その一方で、これも市長が申しましたが、感染対策については当然のことですがさらに徹底をしていただくようお願いするとともに行政が関わる部分は自らしっかり行いたいと思っています。

（記者）仮定の話になるが、実際にクラスターなどが各地で発生した場合、その責任はどの組織が果たしていくものとお考えか。

（副市長）あくまで仮定の話で、どのように起きたかによって対応が変わるものと考えています。